

ほんじつ ～本日のおすすめの本24～

かだいとしょ
課題図書

『おれ、よびだしになる』



なかがわ ぶん アリス館(2019年初版)

*この本は E(絵本)の書棚にあります。(貸出可能)

相撲は、日本が誇る国技です。

大きなお相撲さんが、土俵の上で全力で闘う姿には、だれもが心を打たれますね。

主役は、なんといってもお相撲さんですが、実は、あまりめだたない「主役」もあります。

それは、いわゆる「脇役」なのでは？と思われそうですが、いえいえ、そんなことは、ありません。りっぱな「主役」です。

日本には、「縁の下の力持ち」ということわざがあります。すてきな言葉ですね。(ことわざ辞典は、8番の書棚にありますよ)

主人公の「ぼく」があこがれているのは、お相撲さんではなくて、「よびだしさん」といわれている役目の人たちです。

「よびだしさん」とは、せんすをサツとひろげて、お相撲さんの名前を、よくとおる声で呼び上げる人のことです。たとえば、こんな感じですよ。

「ひが～し～、でわの～せき～」

テレビでもみたことがある人も多いと思います。

じつは、この「よびだしさん」という仕事には、だれでもつけるといえるものではありません。

とても きびしい 道のりなのです。

ねんせいたいしょう
1・2年生対象



「おれ、よびだしになる」というタイトルだけみると・・・「先生によびだされたかな？」なんて、考えてしまいますね。ぜんぜんちがいます^^すごく奥が深いおはなしです。

みなさんには、どんな夢がありますか？将来なりたい職業はありますか？

子どもだから、まだ決まらないのは当然ですし、夢がたくさんあればあるほど、すてきなことだと思います。

この本の主人公の「ぼく」は、5歳のころから、「よびだしさん」になりたいと思っています。そして、その夢を実現するために、がんばります。

お相撲さんのなまえを呼び出すことが、そんなに難しいことだとは思わない人が多いはずですよ。でも、とんでもなく難しいのです。そして、これこそ、「縁の下の力持ち」であり、大相撲というスポーツを支えている人たちであることに、感動します。ぜひ、読んでみてください。